

日本原子力学会 核燃料部会
平成 29 年度第一回運営小委員会議事録

日時 : 平成 29 年 5 月 26 日 (金) 13:30~16:45

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : 寺井部会長、伊藤副部会長、宇埜副部会長、天谷委員、池田委員、上田委員、逢坂委員、大矢委員、尾形委員、草ヶ谷委員、竹野(島田委員代理)、高木委員、谷口委員、手島委員、原田委員、平井委員、巻上委員、岩元(記)

議事

1. はじめに

今年度、部会長に就任された寺井部会長から、自己紹介を含め、部会運営ではこれまでと同様、それぞれの業務担当の委員を中心にしっかりと対応していきましょうと激励の挨拶があった。また、今年度初回の委員会ということで、当日出席した委員の自己紹介を行った。

2. 前回運営小委員会議事録等の確認

岩元庶務幹事から、資料 1 により、前回(平成 28 年度第四回)運営小委員会議事録が提示された。内容確認済みであり、説明は省略した。

3. 平成 29 年度核燃料部会運営小委員名簿、業務担当

岩元庶務幹事から、資料 2-1、2-2 により、平成 29 年度の運営小委員名簿と業務分担が提示された。平成 29 年 3 月 27 日の核燃料部会全体会議で承認され、核燃料部会ホームページに掲載済みであると報告された。

また、資料 2-3 により、業務分担計画表が提示された。この中で、来年度(平成 30 年度)の夏期セミナー幹事が東京大学(寺井部会長)となっており、今年度の早い段階で準備も進められるため、どう対応すべきか早期に検討すべきとの意見があった。これに対して、寺井部会長より部会長自ら対応する考えが示された。もう一方の産業界側幹事の谷口委員より、来年度は 3 部会合同開催で核燃料部会が幹事となるため準備が繁雑である旨の説明や、寺井部会長には講演者の調整などをお願いする予定であることが伝えられ、寺井部会長より相談させてもらいながら進めたいとの応答があった。

4. 平成 28 年度収支実績と平成 29 年度予算の確認

岩元庶務幹事から、資料 3 により、平成 28 年度収支実績と平成 29 年 3 月 27 日の核燃料部会全体会議で承認された平成 28 年度予算が報告された。

5. 核燃料部会メーリングリストの使用方法（案）について

岩元庶務幹事から、資料4により、企画小委員会から審議を依頼されたメーリングリストの使用方法（案）について、メーリングリスト管理者へ確認結果（途中状況）も加えて報告された。

議論の結果、現在のメーリングリストを返信できない情報発信型システム（情報メール）に切り替えることとし、庶務幹事が次回7月6日第二回運営小委委員会までにHPに掲載する説明ページを作成することとなった。

また、「情報交換できる掲示板」は、ニーズとしても少なそうなどの意見もあり、今回の設置は見送られ、今後の情報発信型メーリングリストの採用後の状況を見ながら要否を検討していくこととなった。

6. 夏期セミナーの準備状況について

上田夏期セミナー幹事から、資料5-1、5-2により、7月5～7日開催の夏期セミナーの準備状況が報告された。また、参加申込期限が6月16日であり、周りの若手の方を中心に参加を呼びかけていただきたいとの依頼があった。

7. 核燃料部会報 52-2 の作成状況

原田広報（平成28年度部会報）幹事から、資料6より、部会報（No. 52-2）の作成状況が説明され、ほぼ原稿が揃い6月に発行予定であることが報告された。

資料の国際会議予定一覧の中で、ICAPP2017が学会主催、Global2017が学会共催、ANFCおよびHotLab2017が部会共催であることを追記した上で発行することが確認された。

8. 核燃料部会報 53-1 について

大矢広報（平成29年度部会報）幹事から、資料7より、12月頃発行予定の部会報（No. 53-1）の準備状況が報告され、執筆者の自薦・他薦の協力依頼があった。

部会HP案内でのメーリングリストの使用方法に関する執筆や、ポジションステートメントに関する記事の執筆案（但し、ポジションステートメントWGに確認が必要）が出された。その他の記事も含め、次回7月6日第二回運営小委委員会までに適切な執筆者（自薦、他薦）などがいれば、大矢広報幹事へ提案することとなった。

9. 核燃料部会に学会講演賞を設けるための部会賞実施要領改定案について

伊藤副部長から、前回の運営小委員会で承認された講演賞新設について、その具体的な実施要領案（資料 8）の報告があった。なお、当案は、企画小委員会で議論を行い、コメントなどを反映したものであるとのこと。

議論の中で、講演賞の推薦は部会として責任をもって行うべきなどの意見があり、推薦者は部会員とは限らない座長ではなく、運営小委員会および企画小委員会のメンバー、あるいは、両委員会から推薦者とする事とした。

本講演賞は今年度の秋の大会から開始するため、早期に上記コメントを反映させた部会賞実施要領改定案をメーリングリストで部会内にメール審議（問合先は庶務幹事）を行うことが確認された。

10. 日本原子力学会誌 部会トピックスの執筆対応について

伊藤副部長から、資料 9 より、学会編集委員会から依頼のあった部会トピックスの執筆依頼について、今後の対応案が提案された。

議論の中で、国際的WGの燃料関係に絞った活動紹介や、各部会の活動内容を外部にアピールすることが趣旨と思われるため、例えば、部会報に書かれるようなWGの活動紹介を一般向けに書き直すことでも良いのではないかなどの意見が出された。

提案の通り庶務幹事が部会員全員にメールでの執筆呼びかけを行うことと並行して、伊藤副部長にて、上記意見のようなことを踏まえて執筆依頼対応の可能性を検討することとなった。

11. 国際会議の準備状況について

逢坂国際活動担当から、資料 10 より、9 月 17~22 日開催予定の HOTLAB2017 と 9 月 8~9 日開催予定の ANFC2017 の準備状況が報告された。ANFC2017 に関して以下の審議依頼があった。

・日本からの招待講演者について

⇒ 逢坂担当の方で 3 名程度の推薦者がいるため、後日、運営小委員会のメーリングリストにて周知することとした。

・会告の部会員への案内、参加者募集の協力について

⇒ 逢坂担当からメーリングリストでの呼びかけを行うことの提案があり、了承された。

・部会予算の ANFC 用として留保している 70 万円の一部（25 万円程度）の若手や学生への派遣補助費としての使用について

⇒ 議論の結果、25 万円程度の補助を行うこととした。配分や上限の設定は応募状況をみながら決定することや、次回、次々回の ANFC に役立つような取り組み（例えば、補助を受けた方に部会報に執筆など）を検討していくことが確認された。

1 2. ポジションステートメント「燃料デブリ」の状況

尾形委員から、資料 11 により、ポジションステートメント WG からコメントを頂き、現在修正中であることや、WG より新しく用語解説の作成指示があった旨の報告があった。

本文の修正版はメール等で運営小委員会の確認を受けることとなった。

用語解説の作成については、尾形委員から運営小委の委員の方々に個別に依頼するので、これに協力することになった。

1 3. IAEA TWGFPT の報告

尾形委員から、資料 12 により、4 月 25～27 日開催された IAEA の燃料挙動と技術に関するワーキンググループ (TWGFPT) の報告があった。

今回の報告資料 (議事録) は、各国の発表トピックスを取り纏めた上で、メール等で運営小委員会の確認を受けた後、部会 HP に掲載する予定。

1 4. 水化学部会から共催依頼のあった 2017 年秋の大会企画セッションについて

平井国内企画担当から、資料 13 より、水化学部会共催依頼の企画セッション提案書「福島第一原子力発電所デブリ取出しに関わる水化学管理」の紹介があった。この中で、核燃料部会から研究課題発表者を決める必要があるが、これには核燃料部会が設置した「燃料デブリ研究専門委員会」の幹事を務めている大阪大学の大石先生にお願いしてはどうか、などの意見が出された。このような意見を踏まえ、今後、平井担当の方で発表者の調整することとなった。

1 5. 今年度の核燃料部会 部会賞 (奨励賞) の選考について

平井国内企画担当から、資料 14 より、奨励賞に関するこれまでの議論 (前回の運営小委員会で報告済みのため説明省略) が示され、今年度の奨励賞はこれらを踏まえたかたちで選考を行う旨の報告があった。10 月上旬頃に部会 HP で募集を開始する予定。

1 6. その他

(1) 学会秋の大会などのプログラム編成委員について

伊藤副部長から、現在、核燃料部会から 3 名を編成委員に選出しているが、編成委員の決め方などについてはルール化されていないため、今後は運営小委員会での審議を経て全体会議資料に織り込むなどの対応案が提案され、承認された。

(2) 部会HPの未更新部分の対応について

部会賞受賞者リスト（担当：庶務幹事）と部会長の挨拶とが更新されていないため、早期に更新する。

(3) 次回の開催予定

次回（平成 29 年度）第二回運営小委員会は、7 月 6 日に夏期セミナー会場で開催予定とした。

以 上